

入間JC新生ビジョン

1.はじめに

私たち社団法人入間青年会議所(入間JC)は、1977年の創立以来「タブーへの挑戦」や「夢」といったテーマを持って時代のときどきで社会に必要とされている活動を行ってきました。現在、地域の方々に発信している事業として入間万燈まつりでは市内に暮らす方々の融和や郷土愛の醸成を目指し、そしてわんぱく相撲では子どもたちに礼儀や相手を思いやる心を育むことを目指して活動するなど、事業を通して社会の課題に取り組んでいます。それと同時に「個の基盤の確立」や「まちづくりができる人づくり」を目指し、メンバーの資質向上のための研修も積極的に行ってきました。さらにここ数年間は、入間市と狭山市との行政合併や社団法人狭山青年会議所との統合による新しいまちづくりを目指してきました。結果的に行政合併と青年会議所統合共に実現せずに終わりましたが、地域の将来を見つめ直す良いきっかけになりました。

そのような状況の中で私たちは本年創立30周年を迎え、今まで以上に地域に貢献すべくこれまでの活動を見直し会員一同で議論を重ね、これからの活動の指針としての「入間JC新生ビジョン」を策定しました。当ビジョンは、今まで入間JC内部で議論されたこと、今後のまちづくり、あるいはJC活動において必要であると思われることを取りまとめたものです。

新生ビジョンの中では、入間JCの目指す永遠のテーマとして「夢あふれるまち」を掲げ、それを実現させるために今後の10年間は「真に自立したまち」という将来像を目指して活動していくべきであると規定しました。そして、その将来像の実現に向けた意気込みを「新生」という言葉で表現しています。この地域を「真に自立したまち」にするため「まち」への意識をさらに高く持ち、新たに生まれ変わる決意で活動していきます。

2.入間JC永遠のテーマ ～夢あふれるまち～

私たち入間JCは「夢」をテーマに活動を展開してきました。入間万燈まつりの際には夢半纏をまとい、市庁舎に夢文字を掲げ、各所に夢のぼりを立て夢あふれるまちを訴えてきました。夢を持つことやその夢に向かって努力することが「活力と元気」をもたらすと考えたからです。

このたび、私たちは「入間JC新生ビジョン」の策定にあたり「夢あふれるまち」を入間JC永遠のテーマとして目指すことを決意しました。チャンスと可能性に満ち溢れ、子どもや若者から高齢者までの地域の方々が希望を持ち夢に向かって暮らすまちを目指し、そんな社会の実現のために今まで以上に積極的に活動を続けていきます。

3. まちのビジョン ～真に自立したまち～

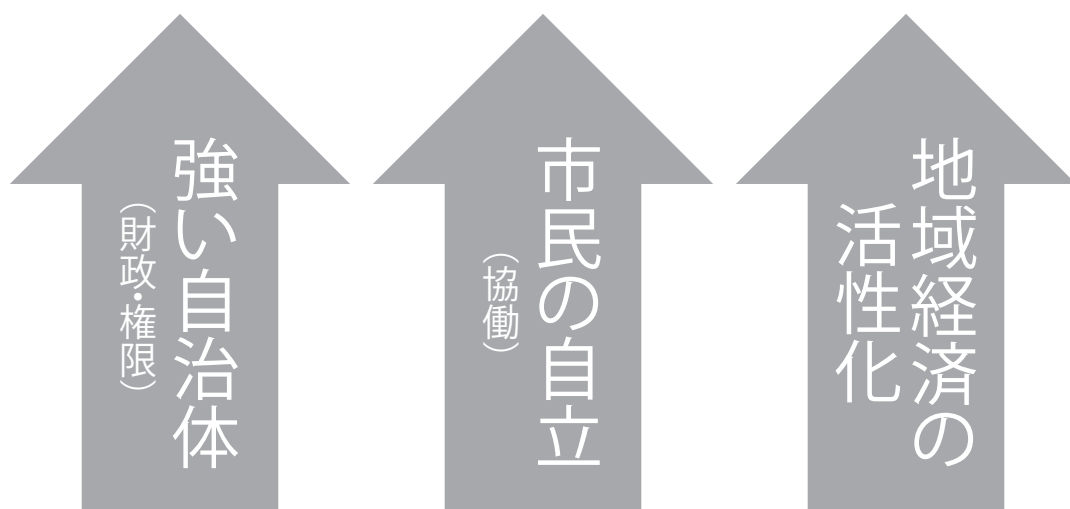
私たちは、入間JC永遠のテーマである「夢あふれるまち」を目指すために「まちの自立」が必要であると考えます。そこで、10年後のまちの将来像として「真に自立したまち」を目標とすることにしました。

(1) 真に自立したまちのために

私たちは、「真に自立したまち」になるために地域経済の活性化や行政の自立などの財政的な自立に加え地域の方々がまちに目を向け自立することが必要と考えます。

夢あふれるまち
(入間JC永遠のテーマ)

真に自立したまち
(10年後の将来像)



郷土愛
(まちづくりの基礎)

夢に向かって(入間JC新生ビジョン)

a.市民の自立

私たちは、地域で暮らす方々の手により「まちづくり」を行い協働することにより「真に自立したまち」につながると考えます。

- 地域で暮らす方々がまちの問題を行政だけに任せるのではなく、「まち」にもっと関心を持ち「自分の問題」として考えることが必要です。
- 一昔前にあった近所付き合いや助け合い精神を持つことにより、「地域コミュニティー」を再生させることが必要です。
- 多くの人々が「地域活動」に参加することにより新しいコミュニティーが生まれ、まちの発展につながります。
- 「真に自立したまち」になるためには、「自助・互助・公助」の精神を持ち協働を行うことが必要です。

自助・互助・公助とは

地域のために市民一人ですることから始め、市民一人ではできないことは市民と市民・市民と企業・市民と行政が、ともに手を取り協力し合うことです。

地域コミュニティー

子どもたちを健全に育てるために、社会の仕組みとして地域・学校・家庭の連携などによる地域コミュニティーが必要です。地域の大人たちから見守られていると思うことが青少年問題の解決につながります。また、地域コミュニティーの充実は、犯罪抑制や災害時の相互扶助などにもつながります。



b.強い自治体

私たちは、行政が先々を見据え財政の健全化を進める一方、特色あるまちを地域の方々とともに目指すことが「真に自立したまち」につながると考えます。

- 将来にわたって健全な財政を維持することが必要です。
- 権限を持った自治体をつくり特色あるまちになることが必要です。
- 地域の方々に目を向けた自治体運営が必要です。

健全な財政のために

今後、少子高齢化が一層進み財政的に非常に厳しい状態になります。無駄な経費を削減することが重要ですが、それと同時に意味のある先行投資をしていくことも大切です。それにより多くの人に住みたいと思われるようなまちになると考えます。

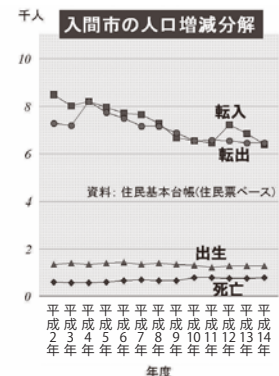
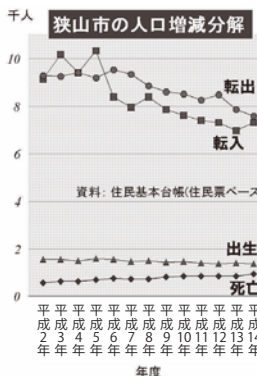
特色について

自治体が特区や条例などを率先して制定し、入間市ならではの特色をつくりだすことが必要です。例えば、子育てがしやすい環境をつくり子どもの人口比率を上げることや景観条例により美しい環境をつくりだすといったことが考えられます。



合併について

私たちは、2005年までの数年間にわたり「真に自立したまち」の実現のために入間市と狭山市との行政合併による新しいまちづくりを目指して活動を展開しましたが、結果として破綻になってしまいました。しかし、入間市でも数年先には人口が減少に転じ、財政の弾力性はますます低下することが予測されており、今のままの行政運営を続けていくことは困難となってきています。私たちは、今後も合併を含めた広域まちづくりを推進することにより「夢あふれるまち」が実現すると思います。



夢に向かって(入間JC新生ビジョン)

c.地域経済の活性化

私たちは、地域経済の発展ならびに企業と地域との融和が、「真に自立したまち」につながると考えます。

- 市内の企業が活性化して、「まちが元気」になる必要があります。
- 新規創業を活発化させて、「地域経済の発展」につなげる必要があります。
- 企業の進出を増やすために地域の魅力を高める必要があります。
- 企業は、今まで以上に「地域貢献」を視野に入れていく必要があります。
- 地域企業の活性化のために、「ネットワーク」が必要です。

企業の地域貢献

例えば、会社敷地周辺の清掃や、ごみの減量に努めることなど、小さなことからでも地域貢献を行い、まちに必要とされる企業となることで、より経営しやすい環境が生まれ、企業の更なる発展につながります。

地元企業のネットワーク

現在、入間市には、さまざまな業種で実力ある企業が数多くあります。それらの企業のネットワークを強くすることで、仕事の可能性が広がるだけでなく、情報交換や技術の向上といった利点を生みます。

新規創業と企業の進出

新規創業を考えている人が、「会社を興しやすい環境」をつくりだす必要があります。例えば、チャレンジジョブなどを行い、少ない資金の中で起業を試す機会とします。また、企業にとって経営上のメリットが多ければ、企業が入間市から離れていくことは無く、他の地域から企業が集まってくることも考えられます。元気な企業が増えれば、雇用も増加し周辺地域からの人の流れができます。



(2) 郷土愛があふれるまち

私たちは、地域の方々や企業、自治体が地域を想う心を育むことが「真に自立したまち」の礎になると考えます。

a. 郷土のすばらしさを知ろう

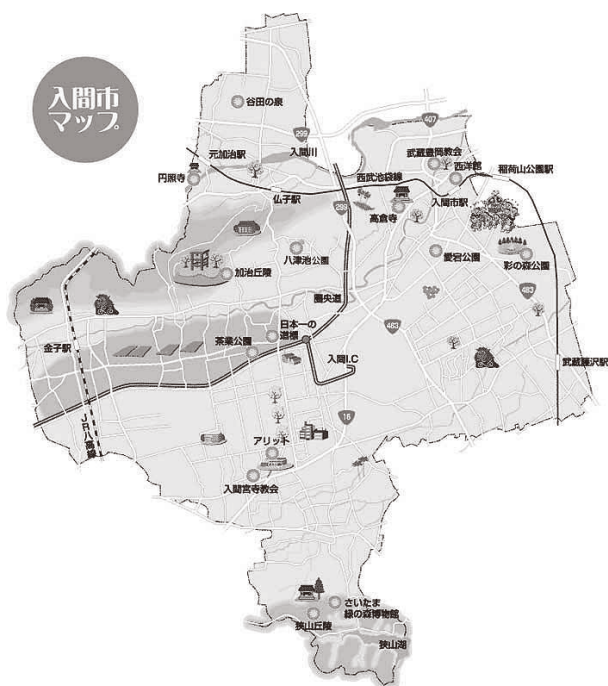
身近な地域の歴史や文化、自然を知り守っていくこと、地域のために積極的に活動を行うことで、郷土のすばらしさを感じまちにも夢を持つことにつながると考えます。

- 地域の歴史や文化、自然を愛しみ触れることによりまちへの愛着が生まれます。
- それらについて、地域の方一人ひとりが家庭や学校、地域で教え合うことにより、郷土のすばらしさを大人から子どもへと伝えていくことができます。
- 地域の活動に多くの人々が積極的に参加することによりコミュニティが生まれ、郷土のすばらしさを感じる機会になると考えます。

郷土を想う心

若い世代の方や入間市に移り住んできた方が、地域に古くから伝わる歴史や文化そして自然があることを知り新たな文化を創造していただくことが大切であると考えます。

市内最大の協働事業として「入間万燈まつり」があります。この事業を今まで以上に協働を推進し郷土愛醸成や新たな文化の創造に結びつけるには、行政主導ではなく市民主導のまつりとし地域で暮らす方々の手により運営し「市民まつり」となっていく必要があります。



≡≡≡ 夢に向かって(入間JC新生ビジョン) ≡≡≡

b.誇りを持てるまち

多くの人の手による地域の特色づくりを実現するには、地域に関心を持ちまちに対して「愛着や誇り」を持つことが大切です。

- 今まで以上に特色のあるまちをつくることにより地域で暮らす人が郷土に誇りを持てるようになります。
- 地域で暮らす方々や企業が地域活動や市民団体へ参加することによって「まち」への愛着も生まれます。



4. JCビジョン ～「真に自立したまち」のために～

私たち入間JCは、10年後の将来像である「真に自立したまち」の実現を目指します。そのために、地域の方々に期待される団体として新生すべく次の通りJCビジョンを定め、活動を行っていきます。

(1)まちづくりのできる人づくり

地域の方々に期待される活動を行うためには、入間JCメンバー一人ひとりがまちに夢を抱きそれぞれの時代の諸問題に敏感に対応でき幅広い視点から地域のことを考えることができる人づくりを目指します。

a.夢を抱いて

メンバー一人ひとりが、「団体としての夢」や「まちへの夢」、そして「個人としての夢」を持ち活動を行うことが必要です。

- 団体としてまちづくりの夢を持ちそれに向かって活動していきます。
- 私たちが個人としての夢、家族との夢、そして企業人としての夢を持ち努力します。

b.郷土愛

今まで以上に私たちが夢を持ち、さらに発展させるために郷土愛を育み地域のすばらしさを知る必要があります。

- 私たちは活動を通じて自然や文化、そして歴史や伝統について関心を持ち知識を深め多くの人に伝え広めます。

c.人づくり

地域の問題に敏感に対応でき、さらに現在の問題だけでなく未来を見据えて活動できる人づくりを行うことが重要です。

- 今まで以上にメンバー一人ひとりが責任と義務をしっかりと認識し活動します。
- 研修を行い政策を考え議論を重ねることにより、メンバー一人ひとりの資質向上を目指します。
- 地域の諸問題だけでなく国際問題や国家の問題などにも目を向け議論できる場をつくります。
- メンバーが個人的に所属する団体に於いても積極的に活躍できる人づくりを目指します。



夢に向かって(入間JC新生ビジョン)

(2) 協働ネットワークを通して

私たちは、地域の方々や企業、そして行政との協働ネットワークを築き、多くの団体と事業を行う中で信頼を得ることにより地域の方々に期待される団体となることを目指します。そして、多くの方に賛同していただきまちの発展のために協働していきます。

a. 市民とともに

地域の方々に信頼され賛同される団体となるために市民団体や企業とともに活動を行い協働ネットワークを築くことが必要です。

- 地域の方々とともに活動を行うために各種団体や企業とのネットワークをつくり、それを生かした活動を行います。
- 私たちの考え方を地域の方々へ知っていただくために例会の大半を公開例会や各種団体との合同開催として、市民参加型の事業にします。
- 政策提言や多くの事業を地域の方々とともに作りあげることにより「真に自立したまち」を目指します。



地域の方々とともに

b.市民の声を聴く

地域のニーズにあった活動を行うために地域の方々と交流を持ち地域が抱えている諸問題を認識することが必要です。

- 公開例会などで私たちの考え方を発信し意見や感想を聴きます。
- メンバーが地域で暮らす方々や企業の声を聴き幅広い視野を持って活動の発展につなげます。



5. おわりに

このたび、創立30周年を機会にメンバー全員で議論を重ねた結果、今後のビジョンを策定しました。策定にあたり最初に行ったのは、過去行われてきた活動を知ることで私たち本来の姿を再確認するということでした。それが入間JCに更なる飛躍をもたらすと考えたからです。本ビジョンの会議を重ねていく中で「地域の方々が大小問わずいろいろな夢を持って暮らすことが必要」という意見や「夢を叶えるために努力する人が多くなければいけない」などの意見が出され「夢あふれるまち」を入間JCの永遠のテーマとして定める、という結論に達しました。

そして、「夢あふれるまち」を実現するために「地域の一人ひとりがまちのことを我がことと捉えられるようになれば」という意見や「企業も地域に根ざした経営をするべきではないか」「自治体も財政面だけでなく地域の方々が活躍しやすい環境をつくるべきではないか」などの意見を踏まえ、10年後の将来像として「真に自立したまち」を目指すことになりました。

さらに、「真に自立したまち」を実現するため今まで行われてきた活動の中で特に必要だと考える「まちづくりのできる人づくり」や「協働ネットワーク」を中心にJCビジョンを定めました。そして、その将来像を実現させる決意を「新生」という言葉に表現しました。私たち社団法人入間青年会議所は、市民に期待される団体として夢を持ち意識を高め地域の方々とともに活動を行っていきます。